

指導者
指導教員

1. 日 時 令和7年9月24日

2. 学年・組 2年 女室（生徒数：29人）

3. 単元名 私たちの暮らしと民主政治

4. 単元目標

(ア) 多数決の原理とその運営の在り方や国会を中心とする日本の民主政治の仕組みや選挙が果たす役割を理解する。

(イ) 学んだ知識を活かし多様な意見や立場から物事を考え、判断した上で自らの意見を論理的に表現することができる。

(ウ) より良い社会を築くために主権者として社会に参画することの意義を理解し、政治や裁判、地方自治における出来事に関心を持ち、日常生活と既習事項を結びつけ、主体的に学ぼうとする姿勢を身につけること。

5. 教材観

本単元は日本国憲法に基づく民主政治の基本的な仕組みを学び、主権者として社会に参画するための基礎を築くために重要な学習資源である。単に制度を暗記させるのではなく、生徒が自分の生活と人権や自由との関わりを実感し、なぜ民主政治が必要なのか、権利を行使する際に何を考えるべきかを主体的に問い直すきっかけとなる内容となっている。

故にこの単元は、生徒が「社会の仕組みを理解するために必要な知識」と「主権者として社会に参画する態度」を育むための内容と位置付けられる。

6. 児童・生徒観

クラスの生徒は、テレビやインターネット SNS などを通じて政治や社会の出来事に触れる機会が多いものの、それらが自分の生活とどのように関わっているのかを実感することは少ない。また、憲法・基本的人権・政治制度などについては制度の内容を暗記的に学びがちで、制度の意義や背景にまで目を向けている生徒は多くない。しかし身近なニュースや学校生活のルールに照らして考えると権利と義務の関係や社会参画の大切さに気づくことができる。また自分の意見を明確に持ち、友人と話し合うことで多様な考えを取り入れ、より良い意見を構築する能力を持っている。

7. 指導観

自分が持つ基本的人権を正しく理解している生徒もいれば、正しく理解していない生徒もいる。したがって、授業では基本的人権と本単元がどのように関連しているのかを具体例を用いながら展開していく必要がある。また単に知識を伝達するのではなく、制度が誕生した背景とともに説明する必要がある。そして、生徒が習得した知識を活かして、対話的で深い学びが実現できる授業にしたい。

8. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 日本国憲法の基本原理や基本的人権を理解し民主政治の意義を生活と結び付けて理解している。 ② 民主政治における制度や選挙の仕組み・ルールを理解している。	① 民主政治を支えるしくみについて多様な意見や立場から物事を考え、判断した上で自らの意見を論理的に表現している。	① 日常生活での出来事や、ニュースと習ったことを結びつけて考えようとしている。 ② 主権者として社会に参画することの意義を理解し、自ら社会と関わろうとする意識を持っている。

9. 単元の指導と評価計画

時	○ねらい ・活動
1	○民主主義の意義とともに民主政治の仕組みや、多数決の原理と少数意見のあり方について理解させる。 ・多数決の種類によって良い面、悪い面を考え話し合う。 ・直接民主制の難点について考え、話し合う。
2	○選挙のルールと意義を考える。 ・明治時代と現代の選挙を比べて、今の選挙制度が民主的なのかを理解させる。 ・小選挙区制と比例代表制のそれぞれの特徴について理解し、考察させる。
3 (本 時)	○18歳選挙権が実現した意義を考え、自分たちが選挙に行く意味を考える。 ○一票の格差や投票率の低下への対策を理解する。 ・自分たちが選挙に行く理由を、考え論理的に考察することができる。
4	○政党が持つ意義や、政党の働きを知り、競争が起きることにより良い政治になっていることを知る。 ○二党制と多党制における長所・短所を考える。

10. 本時の展開

① 本時の目標

選挙の存在意義を理解し、私たちが選挙に行く意味を表現できる。

② 本時の評価規準

【思考判断表現】

自分たちが選挙に行くことがいかに重要かを考え、表現することができる。

③ 本時の準備物

パソコン・指導案・HDMI変換ケーブル・プリント

④ 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導場の留意点
導入 (5分)	<ol style="list-style-type: none"> 現在の日本の選挙に関する質問に答える。 <ul style="list-style-type: none"> ・有権者の年齢 ・投票率が高い世代 ・衆議院選挙の投票率 投票率と日本の有権者の割合を示すグラフを読み取る。 	
展開① (20分)	<ol style="list-style-type: none"> 日本の選挙権が拡大した背景を学ぶ。 若い世代が政治に参加することの良い点を考える。 若い世代の選挙投票率の資料を読み、日本の若者の選挙投票率が低いことを知る。 投票率が低い理由を班で話し合う。(1分) 班で出た意見を発表する。 選挙に行かないことの影響を学習する。 若者が選挙に行かないことの影響を班で考える(3分) 投票率を上げるための工夫を学習する。 <p>① 期日前投票制度と書く</p>	<p>【発問】 18歳から選挙権が与えられますが、その長所はなんですか。</p> <p>【6の発問】 若者の投票率が低い理由を予想しよう。 →めんどくさい・わからない・忙しい</p> <p>【9の発問】 若者が選挙に行かないと、どのような影響が社会に与えられるでしょうか</p> <p>机間指導をして、良い意見が出ている班を見つけて、後で紹介する。</p>
展開② (13分)	<ol style="list-style-type: none"> 前回の授業で習った選挙の4つの原則を復習してから、平等選挙に反している一票の格差問題について学習する。 一票の格差をなくすための工夫について学習する。 	
まとめ (12分)	<ol style="list-style-type: none"> 私たちが選挙に行く意味をまずは一人で5分間考え、班で3分間交流する。その後班でよかった意見を発表してもらおう。 	<p>班の人の意見で参考になった点があれば、赤・青ペンで記入するように伝える</p>

⑤ 板書計画



①期日前投票制度

②一票の格差

→憲法第14条の法の下での平等に反する

ごうく
③合区

私たちが選挙に行く意味とは何かを自分なりに表現しよう